

学校の教育目標	たのしい学校 やりぬく子ども
重点目標	○学びに向かう力を伸ばす ○自立・共生の力をつける

評定判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

重点目標	達成指標	児童の達成度	重点的取組	到達イメージ	取組指標(2学期)		取組評定	達成評定	成果や課題および 3学期・来年度に向けた改善点など
					達成に向けて取組内容	期待される児童の姿			
学びに向かう力を伸ばす	○学期毎のアンケートで *「授業がわかる」児童が90%以上(90%) *「授業では、よく、自分の考えをペアやグループで話したり、みんなの前で発表したりする」児童が80%以上(86%) *「難しい問題を考えて挑戦したりするのは楽しい」児童が70%以上(80%) ○中津市学力定着状況調査において、全ての学年で活用の目標値を3ポイント上回る(5年生のみ)	B	<学びに向かう質の高い学習集団づくり> ①学習規律の定着 ②家庭学習の習慣づけ ③節目での確認・補充学習時間の設定	○温かく聴き合う雰囲気の中で授業が行われ、苦なこと・わからないことでも、友だちに聞いたり調べたりして、わかるまで、意欲を持って取り組もうとする学級。	①ノートに自分の考えを書かせる。	②家庭学習を保護者と連携して定着させる。	③単元の終わりや学期末に「マイスタディタイム(確認時間)」を設定し、学習内容の定着状況の確かめと補充の時間を設ける。	A B A A B B	【成果】 ・ノートは、全校で取り組むことで自分の考えを式や言葉、数直線などを用いて書けるようになってきた。一人学びで考えが書けなかった児童も、学び合い後に自分の考えとして書き表すようになってきている。 ・学級懇談会で、「家庭学習の取り組み方」について話し合いをした。懇談会を欠席する保護者向けに懇談会資料とは別に「学級懇談と家庭学習についての別プリント」を配布した。かけ算九九の暗唱は、保護者がとても協力してくれた。 ・宿題は、ほぼ全員毎日提出している。未提出の児童には昼休みや放課後させたり、わからないところは指導したりして学習内容を定着させている。 ・単元の終わりにマイスタディタイムを実施し、定着状況を児童が自己評価する時間になった。(習熟しきれていない課題を個人々で見つけ、その日の自学に活かす) ・校内研究は、学年部で授業を見合い、活発な事後研ができた。人の授業を見ることによって、教師の授業力の向上がはかられている。 ・各担任が、単元を変えて授業を行ったので、自分が気づかなかった指導方法を学ぶことができた。 ・児童は、根拠を示しながら説明することができるようになってきた。 ・市の学力調査では、国語の書か問題、漢字、算数の思考を要する問題、記述問題等、全国・県調査後、特に全校で力を入れて取り組んできた課題については成果が出ている。 ・市調査の経年変化を見ると、ほとんどの学年で年々スコアが上がっている。 【課題】 ・友だちや教師の支援なしでは書かない児童、ノートなどを出したり書き始めたりするまでに時間のかかる児童が数名いる。全校で継続的に指導していくことが必要。 ・自分の思いを文にまとめることが苦手なので、書く活動に引き続き取り組んでいく。 ・学級によっては、家庭学習を忘れる数人が固定している。学校で必ずさせて基礎基本を定着させることを、全校で徹底していく。 ・マイスタディタイムの設定をしているが、人数が多いことや、理解差、チャレンジコースへの意欲差などがあるため、指導の時間が足りない。今後も、取組ながら、お互いに慣れたり改善したりしていく。 ・随分と話し合う雰囲気は生まれているが、反対意見に対して返答したり、少数意見を大切にするようなレベルに達していない。 ・課題設定を意識して授業している。課題がよくなかったかなと自分が思ったときには、児童の意欲もよくなかった。課題の工夫を更に行っていく。 ・算数の基礎について、理解はできているが習熟不足が見られる。 【今後の改善と取組】 ・学習規律は、どの学級も向上してきているので、次のステップとして「学習わざ」の習得に進んでいく。(既習の学習をふりかえるくせ、数直線や線分図など考えを整理する手段になるものをいつでも使いこなせるよう普段から書き慣れさせておく、根拠を述べるときの話し方、ノートの書き方展示など) ・家庭学習については、家庭生活時間内の習慣化が課題。「家庭学習の手引」の改訂、1学期に1回の家庭学習習慣調査を行い、保護者の家庭学習習慣への意識と協力を呼びかけていく。(すでにPTAでもアンケートを実施、広報誌に特集を組む予定) ・「マイスタディタイム」の完全実施。スピード不足の「技能」について、学年でメニューを決めて行い児童に成長を実感させていく。 ・校内での授業研究「根拠をもとに考えを伝え合い学びを深める課題解決的な授業づくり」研修(今日の課題)の一層の充実。 ・すべての教科・領域、学校生活全般での言語的な活動の充実。
			<根拠をもとに考えを伝え合い学びを深める授業づくり> ◎考えを伝え合うためのペアやグループ活動 ①つけたい力を明確にし、学習意欲や見通しを持つことができる単元計画 ②考えを書いたりまとめやすくなる視覚的支援の工夫 ③既習事項や体験を生かすことができる、根拠を伝える必要性がある課題	○どの児童も、課題について根拠と自分の考えを絵図や文章で書き、ペアやグループや全体の場で伝え合っている。また、先生や友だちの考えを取り入れて、課題を解決できた実感を持っている。	①単元計画を作成した互見授業・事後研を行う。	②考えを深めたり伝え合ったりする場面での視覚的支援を取り入れた授業を行う。	③学ぶ意欲を引き出し、根拠を伝える必要性が生まれる課題を設定した授業を行う。	A A B	
			<自己指導能力の育成> ○時間やきまりを守って生活していく態度と習慣を身につけさせる	○学習用具を準備したり、移動したりして、チャイムと同時に授業や活動を始めることができるようにする。 ・8:30読書 ・チャイム着席の徹底	①学習用具を準備したり、移動したりして、チャイムと同時に授業や活動を始めることができるようにする。 ・8:30読書 ・チャイム着席の徹底	②「みんなでまもろう2016」の取組のうち、「ろうかを歩く」「トイレのスリッパをそろえる」を定着させる。 ・特活・道徳等で意味を考えさせる。 ・朝の会・帰りの会や係・当番活動の中で、定着を図る取組を行う。	①自ら、すすんで、挨拶ができるようになる。 ・各学年、学級で挨拶の定着を図る工夫し、実践を行う。	A A B	
			<人を大切にする力の育成> ○相手を大切にしたり挨拶、返事、お礼、言葉遣いを身につけさせる	○先生や友だちへ「おはようございます」「さようなら」が大きな声で、自ら言っている。 ○公の場で、丁寧な言葉を使って話すことができる	①自ら、すすんで、挨拶ができるようになる。 ・各学年、学級で挨拶の定着を図る工夫し、実践を行う。	②授業中・掃除時間に、適切な言葉遣いができるようにする。 「呼びすて」×「単語のみ」×「丁寧語が使えない」×	①自転車の乗車や遊具の使い方や睡眠、病気に対する予防などの保健指導を行う。 ・通信、集会、学級指導	B A B	
自立・共生の力をつける	○遅刻0 ○不登校0 ○学期毎のアンケートで *「学校が楽しい」児童が90%以上(89%) *「自分のことが好き」な児童が90%以上(63%) ○学年集会、体験活動等で、自ら時間を意識して集まり、よく聴き、はっきりと話し、活動を楽しもうとする児童 ○体力調査の全項目で全国平均を上回る	B	<体力向上・健康管理> ①保護者と連携して健康・安全に対する意識の向上 ②いろいろな運動を楽しむ環境作り	○健康・安全に気をつけて生活している。 ○天気の良い日には、外に出て元気よく遊ぶ児童が多い。	①自転車の乗車や遊具の使い方や睡眠、病気に対する予防などの保健指導を行う。 ・通信、集会、学級指導	②休み時間に運動場や体育館などで遊ぶことを促す。体力向上部で企画を行う	B B A B	【成果】 ・遅刻は、調査期間中(2週間)2日以上の児童2名 ・不登校0名 ・「あすなろそうち」の周知により全校児童の意識が高まり、「時間やきまりを守っている」児童は87%～89%。お互いに規律を守ろうとする姿が多く見られるようになってきた。 ・朝すれ違ふときに「おはようございます」と頭を下げて目を合わせて挨拶できる児童が増えた。こちら側から挨拶すると、ほぼ100%挨拶が返ってくる。 ・授業中、朝の会・帰りの会、掃除時間は、丁寧語・さん付けで話している。柔らかい言葉遣い、教師に対する言葉遣い(丁寧語)も意識させ、できないときは言い換えさせることを全教職員で指導できている。日々のめあてに取り入れている学級も多く、児童自ら気をつけよう意識する学校風土ができてきた。 ・保健委員会の児童が栄養や睡眠の大切さを訴えた劇やクイズを発表したことによって、全校児童の意識向上につながった。 ・おにごっこ集会に多くの児童が参加し、運動場で遊ぶ児童を増やすことができた。集会が終わったあとも、引き続き元気よく運動場で遊んでいる姿が見られた。 【課題】 ・学習規律は随分身につけてきたが、引き続き全教職員での目配りや指導が必要である。 ・「あすなろそうち」のうち、「廊下を歩く」ことについては、教師が見ていないところで休み時間前後に守れていない児童が多い。他はきちんと守れている。 ・授業中の言葉遣いはよいが、授業の時間外に言葉遣いがなかなか良くならない。言葉遣いは、まだ努力が必要である。(12月より毎月1回全校一斉に言葉遣いについて人権学習・道徳授業等を実施している) ・高学年のスマホ使用による夜更かしが気になる。個別の指導はしたが、全体指導の必要性も感じた。 ・ゲームのしすぎやテレビの見過ぎの悪影響も考えさせているが、そのための睡眠不足は解消されていない。 ・「ヘルメット＝命」を事例を出しながら話してはいるが、なかなか徹底されない。 【今後の改善】 ・「あすなろそうち」の継続指導。児童会・委員会活動と連動し、児童の自治的な活動を促していく。 ・PTAと連携して「ほめことば」に取り組み、人を大切にすることをコミュニケーションスキルを育成していく。 ・睡眠時刻については、Pアンケートでも昨年より遅くなっている(遅くとも10時までに睡眠81.9%～78.4%)。保護者との協力が必要。	